



～無自覚に人を傷つけていませんか～

日常生活の中で、あからさまな差別表現でなくても、無自覚、無意識のうちに相手の気持ちを不愉快にさせたり、モヤモヤさせたり、傷つけたりする言動があります。このことを「**マイクロアグレッション**」と言います。この言動の背景には、国籍や人種、性別、性的指向、障がい、年齢、出身地など、特定の人たちへの軽視（みくだし）や偏見が隠れていることがあります。

さすがブラジル人！
サッカーがうまいね。

料理上手だね。
いい奥さんになれるね。

その年齢でスマホ（SNS）
ができるなんてすごい！！

部落差別って
まだあるの？

言われた人はどう思っているかな？何か問題か、一度、考えてみて！



- （例）
- ・本当にサッカーが上手い場合でも、その人の努力に関係なく「ブラジル人だから」と一括りにされることを不快に思う人もいます。
 - ・女性が男性のために料理すべきだという社会的な期待を反映していること。
 - ・「高齢者は機械操作に弱い」という先入観で発言していること。
 - ・自分にとって部落差別は、存在し、いつ出会うかと不安や恐怖を抱えているのに、「そんなものはない」と否定されることで自分たちの苦しみを見えなくされているように感じる人もいます。
 - ・褒めているつもりなのが、伝わるだけに言われた側は指摘しづらく、「気にしすぎる自分が悪いのかな」と我慢させてしまうこと。

マイクロアグレッションが生まれる原因の多くは、「社会に蔓延している偏見や思い込み」です。それに対して、「無知」「無理解」「無関心」のまま、事情を知らないまま無意識に発言したことが、知らない間に相手を不快にさせているかもしれません。

～マイクロアグレッションをしないためにできることは～

①その発言は無知や偏見、興味本位からくるもので、失礼な伝え方になっていないでしょうか？

自分が正しいと思っている考えが、これまでの慣習や一方的な情報によるものかもしれません。誰もが行ってしまいう可能性があるため、相手に伝える前に、一度立ち止まって考えてみるのが大切です。

②相手をステレオタイプに押し込めようとしていないでしょうか？

社会に浸透している先入観や固定観念に基づいた、「〇〇人だから」という無意識の決めつけや思い込みをステレオタイプといいます。女（男）だから、外国人、障がい者、高齢者だからなど…属性にとらわれず、事例の場合であれば、「あなたはとてもサッカーが上手いんだね」と褒めてあげるような言葉を伝えればよいのではないのでしょうか。

阪神同教研究大会

多数のご参加、ありがとうございました！

8月2日（土）、第72回兵庫県人権教育研究大会阪神地区大会が、川西市立川西北小学校及びキセウ川西プラザで行われました。参加者は899名で宝塚からは61名が参加しました。なお宝同協からの分科会発表者は下記のとおりです。

原田 ひじりさん （宝塚市立逆瀬川保育所）	テーマ：一人一人を大切にする保育 ～保護者とともに子どもを見守る保育をめざして～
岡本 由香さん （宝塚市立仁川幼稚園）	テーマ：互いに認め合い、支え合う仲間づくり
桂川 晋さん （兵庫県立宝塚北高等学校）	テーマ：教科指導における人権意識の涵養 ～地理総合・地理探求を事例に～
中島 僚太さん （宝塚市立末広小学校）	テーマ：ありのままに自分らしく生きる
小川 瑞枝さん （宝塚市青少年補導委員連絡協議会）	テーマ：子どもたちの笑顔のために ～補導委員として大切にしていること～
林 純子さん （宝同協地域教材作成委員会）	テーマ：“我が街・宝塚を愛せる子どもたちに”の願いで ～地域教材『教科書は誰のもの？』を完成させました～

9月27日（土）に開催された第72回兵庫県人権教育研究大会中央大会（豊岡市）には、阪神地区大会で選出された宝同協地域教材作成委員会の“我が街・宝塚を愛せる子どもたちに”の願いで～地域教材『教科書は誰のもの？』を完成させました～が発表されました。

物語『教科書は誰のもの？』を必要とされる方や、兵人教中央大会での発表内容、物語ができるまでの表と裏話、せい吉ととみ子の話などをお聞きになりたい団体は宝同協事務局（TEL0797-77-2040）にお問い合わせください。

2025年度 第15回 宝同協研究大会「人権交流学びのつどい」のご案内



テーマ 『あなたに伝えたい わたしの思い』

日 時：2026年1月24日（土）13：20～16：20

場 所：宝塚市立教育総合センター

日 程：全体会 13：20～14：00 分科会 14：10～16：20

オープニング ルンビニ学園幼稚園コーラス部

分科会テーマ（予定）

【第1分科会】 子どもの人権を考えよう

報告者 藪内 雄子 さん

【第2分科会】 部落差別について考えよう

報告者 山田 哲生 さん

【第3分科会】 障がいのある人たちと共に

報告者 森田 智也 さん

【第4分科会】 外国人の人権を考えよう

報告者 グエン ゴック ニュー イー さん

【第5分科会】 若者（高校生）の生き方

報告者 高校生

【第6分科会】 人権教育の今を見つめ、これからを考える

報告者 小学校教員2名 中学校教員2名

この夏も高校野球をテレビで観戦しました。今年から朝と夕方からの試合でちょっと面食りましたが、選手や観客の熱中症対策のためで、思い切った改革だと感心しました。

このような改革は、色々とみられるようになってきました。タイブレイク制度や七回制の検討等です。また、プロ野球では、再来年からセ・リーグが「指名打者制度」の導入があります。これらの改革は野球だけではなく、スポーツ全体に今後進んでいくのではないかと思います。中学校の部活動の地域移行も暑さ対策が目的でないけれども、地域で子どもたちを育てていこうとする本来の子ども育成方法の転換でしょう。

ところで、伝統やしきたりを重視されているスポーツも多く見られます。その一つに大相撲があります。観客には性別を問わず多様な方がいらっしゃいますが、表に出る主催側はそうではなく全て性別で言うとなりのみです。いい例が女性が土俵に上がれないという伝統があるようです。それと、テレビ観戦していて感じることに、土俵の周りが狭く、飛ばされた力士に観客が押したおされたりする場面と、土俵の高さによる急な角度です。もう少し緩やかにすれば力士のけがも減少すると思うのですが・・・大切なことは全ての人の人権と平等と健康です。大相撲の伝統やしきたりを大切にしながらもより良い方向へ改革して欲しいと思うのです。

大リーグの大谷選手が第1打席に入る前、相手チームの監督等ベンチにあいさつを欠かさないことや、ファールを打った時、当たりそうになった人に手で「ごめん」の合図をする姿は日本の礼節やしきたりかもしれませんが、それより大谷選手の人への思いだと感心します。

時代は国政選挙と共に変化しています。人権が大切にされるより良い方向にと願うばかりです。

【和久】



Ha-ton-zu 「子どもの幸福度」 (ハートンズ)

- ボ ク 「ねえ、日本の子どもの幸福度って、世界の何位だと思う？」
ニ ー 「知ってる。国連のユニセフとかいう所の発表だろ。」
オトン 「へえー、何位なんだ？」
オカア 「43か国中、14位だって。」
ネ エ 「すごいじゃん。1位はどこ？」
ボ ク 「オランダだよ、精神的な健康も1位だって！日本は32位。」
オトン 「精神的な面はダメだね～」
ニ ー 「身体的な健康度はどこが1位なん？」
オカア 「もちろん、日本だよ。いいもん食べさせているんだから。」
ボ ク 「違うよ、健康は子どもの運動に関係してるんだよ！」
オカア 「勉強せんと、部活ばかりやってるもんね。」
ボ ク 「成績だけが人生と違うって、いつも言うくせに！」
ネ エ 「やめてよ！親子喧嘩は、日本が世界で1位かもね。」
オジイ 「ほんまかいな？」

【和久】

宝同協で啓発グッズとして
イメージキャラクターの缶
バッチを作りました。



ハーとん作品賞の入賞者等
に配付していきます。

解 放 文 化 祭 の お 知 ら せ

☆くらんど解放文化祭☆

10月23日(木)：9時～20時30分 24日(金)：9時～20時30分

☆まいたに解放文化祭☆

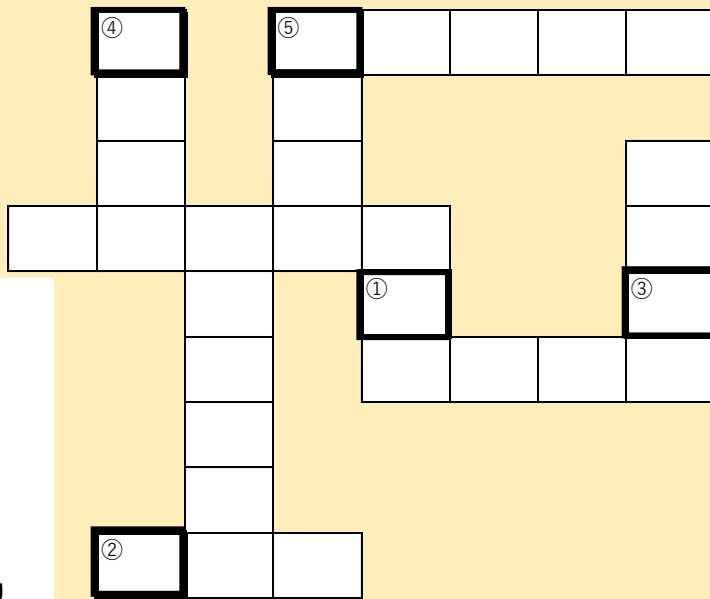
11月 6日(木)：9時～19時30分 7日(金)：9時～19時

☆ひらい解放文化祭☆

11月 7日(金)：9時～21時 8日(土)：9時～19時

内容：子どもたちの作品展示、登録団体や市民グループの活動についての展示、
人権文化センター事業についての展示等

芽生えパズル



もみじ
とりい
あいさつ
うれしい
らーめん
じんけん
さつまいも
うつくしい
まつぼっくり

○たて・よこのマス目に下の文字をうまくあてはめます。
○太いマス目に入った文字を並べ替えてある言葉にします。
(答えは下にあります。)

【濱崎】

街角風景



安倉の田園
【前芽生え編集委員
林 眞佐男さん】



仁川から見える
万博の花火【平松】

学校の様子



高司小学校



6年生は9月17日(水)18日(木)、広島方面へ修学旅行に行きました。7月には、折り鶴集会を開きました。6年生を中心に高司小学校の児童全員で鶴を折り、平和への想いを形にすることができました。

平和記念公園では、原爆の子の像の前で平和集会を開き、平和の大切さを一層強く感じた6年生の姿がありました。広島で学んだことを全校児童に伝えます。【井上】

★ 編集後記 ★

第35号宝同協だより「芽生え」をご覧いただきありがとうございます。今回は「マイクロアグレッション」について考えました。無意識な言動が相手を傷つけることもあります。それぞれが自身の言動を振り返り自問自答を繰り返すことで、みんながより過ごしやすい社会になることを願っています。【渡辺】

宝同協だより「芽生え」編集委員

渡辺 和恵・平松 友紀・佐古 由紀恵・井上 智恵
松延 美穂・濱崎 桂伍・池澤 径子・和久 有彦
木元 淳一・石櫃 孝啓・吉野 大樹・美除 浩
清水 浩明